

科学研究費助成事業 研究成果報告書

令和 2 年 6 月 19 日現在

機関番号：37503

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2017～2019

課題番号：17K02058

研究課題名(和文) アラブ王制持続の総合的研究 ヨルダン・ハシミテ王国とその周辺空間を巡って

研究課題名(英文) Stability and Sustainability of the Arab Monarchies: A Comprehensive Case Study on Hashemite Kingdom of Jordan and Its Surrounding Area

研究代表者

吉川 卓郎 (Kikkawa, Takuro)

立命館アジア太平洋大学・アジア太平洋学部・教授

研究者番号：30399216

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,300,000円

研究成果の概要(和文)：ヨルダン・ハシミテ王国は「アラブの春」以降の地域変動を乗り越えた数少ないアラブ国家のひとつである。本研究はヨルダンを対象に、同国の国家・社会構造と関連する国内外アクターの相関関係を主に政治学の立場から明らかにし、その国家体制維持の構造の全容解明を試みた。さらに、これらの作業を通じ、ヨルダンの総合的な研究基盤を構築し、アラブ王制研究全体への還元を目指した。主な論点は、体制の形成・維持の歴史的過程の整理、国家-社会運動関係の分析、国際関係の分析、等である。具体的な研究成果としては、国内外の学会やシンポジウムでの研究報告、国内外の学術ジャーナル等での論文発表、そして図書(単著)の刊行が挙げられる。

研究成果の学術的意義や社会的意義

「アラブの春」を経てアラブ諸国の多くが脆弱化する中、ヨルダンは地域における数少ない安定した政治主体のひとつとなっている。しかし、その安定と持続性のメカニズムを裏付ける研究蓄積が少ないため、学術的な成果を中東研究全体に還元できていなかった。こうしたヨルダンの現状と将来を見極めるために、本研究では、1国研究を超えた、中東諸国さらには域外諸国との関係をも含めた広い視座に基づく、総合的なヨルダン研究の構築を目指した。

研究成果の概要(英文)：The Arab Spring set off a surge in fragile Arab states and the Hashemite Kingdom of Jordan remains as one of the few stable political entities in the region. Despite this, there was still a lack of research on the mechanisms of Jordan's stability and sustainability, which hinders consideration of this phenomenon in the context of Political Science as a whole. To promote an empirical evaluation of the foundations and supporting structure of Jordan's systematic sustainability, this research considered first the legitimacy of the monarchy from historical and political viewpoints. Secondly, it compared Jordan's social movements to measure their origins and purposes and their effects on national politics. Thirdly, it examined Jordan's relationships with surrounding states and non-state actors concerning both international and domestic politics. This research assembled a comprehensive study of Jordan through presentations, journal articles and books in the relevant fields.

研究分野：政治学

キーワード：政治学 地域研究 中東 イスラーム 比較政治学 国際関係論 安全保障 難民問題

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19 (共通)

1. 研究開始当初の背景

吉川(研究代表者)と佐藤(研究分担者)は、これまでヨルダン・ハシミテ王国での政府・社会運動関係者および知識人へのインタビューや文献調査等による研究を通じ、ハーシム家出身の国王を中心とするヨルダン政府が体制生存を可能にした構造の分析を進めてきた。これらの研究成果は、ヨルダンに関連する様々な重要研究課題を解明するうえで役立ったものの、中東研究全体を見据えると、以下の新たな課題も見えてきた。

(1) 総合的なヨルダン研究の必要性

「アラブの春」を経て多くの周辺国家が脆弱化する中、ヨルダンは地域における数少ない安定した政治主体のひとつとなっている。しかし、その安定と持続性のメカニズムを裏付ける研究蓄積の不足ゆえ、学術的な成果を中東研究全体に還元できていなかった。

(2) ヨルダン研究における学際的なアプローチの必要性

近年、ヨルダンの歴史や国際関係に関する研究成果が相次いで刊行されており、またアラブの春以降は、ヨルダンの民主化や市民社会形成に関する論考も登場している。しかし、これらの多くは個々の事例に特化しており、またヨルダンの国家機構とそれぞれの分析対象の関係性が固定されているために(縦関係)、それらがどのようなネットワークで相互に関連しているのか(横関係)を示せていなかった。

(3) ヨルダン1国研究を超えた視座の必要性

もともとヨルダンは、人工国家ゆえの脆弱な基盤に加え、中東戦争やパレスチナ問題といった地域情勢が強く内政に反映される「緩衝国家」であった。しかし、アラブの春以降に周辺の地域大国の主権が揺らいだ結果、ヨルダンは大量の難民流入や国外の過激派の脅威にさらされる一方で、経済援助から軍事協力まで国際社会からの広範な支援を集めるに至った。この状況は、緩衝国家としてのヨルダンの役割をいっそう強化させると共に、ヨルダン政府をして混沌を所与のものとして受け入れるという、世界的にも稀な国家の実像を浮かび上がらせた。こうしたヨルダンの現状と将来を見極めるために、1国研究を超えた、中東諸国さらには域外諸国との関係をも含めた広い視座の獲得が必要であった。

2. 研究の目的

上記1. 記載の背景と問題意識をもとに、本研究は、ヨルダンを対象に、同国の国家・社会構造と関連する全ての国内外アクターの相関関係を明らかにし、国家体制維持の構造の全容を解明することを試みた。これらの作業を通じ、ヨルダンの総合的な研究基盤を構築し、アラブ王制研究全体への還元を目指した。

(1) 王制基盤と支持構造の解明

ヨルダン王制の正統性に関し、⑦英国委任統治時代の「国際関係」から現在まで、国際社会におけるヨルダンの位置の変遷を国際関係学の枠組を用いての解明を目指した。特にここでは伝統的な国家対国家関係やレジーム形成の分析に加え、トラック2外交、国際NGOなど非国家アクターをも含めた動態にも注目した。調査方法は、ヨルダン、米国、英国等の外交資料の精査、関係者への聞き取りを主とした。また、④吉川・佐藤によるヨルダン政治研究の内容を最新のものにアップデートし、また2016年の比例代表制導入以降の政党・社会勢力の動向を、文献・資料調査と現地聞き取り調査の双方から調査した。

(2) 社会運動の比較分析

ヨルダンで展開される様々な社会運動の起源と目的、国政への影響力について測定した。まずヨルダンで展開する社会運動を文献・資料調査によって分類し、それらの方向性の整理と相互連関の分析を通じた体系化作業を行った。わけても、ヨルダン最大のイスラーム主義・社会運動であるムスリム同胞団については、比較政治学、社会運動論、安全保障(安全保障化)といった複数の視点から、その全容解明を目指した。

(3) ヨルダンと周辺の国家・非国家アクターとの関係性解明

国際政治と国内政治の両面から、⑦ヨルダンの政軍関係を文献調査と現地調査の両面から解析することで、その組織基盤の強靱性を明らかにした。また、ここでは軍の改革の実態(国連PKO、テロ対策、軍ビジネス強化)についての調査も併せて行った。続いて④「イスラーム国」に代表される脱領域的な暴力組織の浸透に対するヨルダン国家・市民社会の取り組みを、現地大学・調査機関との連携のもと調査した。ここでは、2015年以降の全国的な反テロ機運の高まりとナシヨナリズムとの関連についても併せて調査した。そして⑤多層化するヨルダンの難民を巡る情勢を、国際難民レジーム、国家、非国家アクター(社会とNGO)の相関関係から分析した。

以上で得られた成果を、ヨルダンの体制維持の構造という視座から論究し、中東政治研究・アラブ王制研究の発展へと還元することを目指した。

3. 研究の方法

(1) 吉川

ヨルダン王制の正統性基盤と支持構造の解明に重点を置いた研究活動を進めた。ここでは、主に文献資料・政府公文書を通じて英国委任統治領時代から現代までのヨルダン史を整理した。委任統治領時代の資料については、英国国立文書館にて政府外交資料の分析および撮影を行った。また、ヨルダン2016年総選挙で大幅な法改正が実施されたことから、改正選挙法関連資料の分析と関係者への聞き取り調査を実施した。

(2)佐藤

ヨルダンを巡る国際関係と関連アクターの抽出作業を実施した。特に、ヨルダンの難民受入の構造に関わる国際難民レジーム、政府機関、NGO等の分類を進め、移民労働者の分布や、付随して進展している都市化の動態を把握し、ヨルダン及び周辺域を取り巻く国際人口移動のモデル化を進めた。また、現地調査を通じて文献・一次資料の収集と、政府諸機関及び現地NGOなどへの聞き取り調査を併せて行った。

(3) 個別の研究の継続と成果公表

吉川・佐藤による現地調査と文献調査による研究を継続し、それらの連携と更新に努め、蓄積された情報を学会発表、論文、書籍の形で適宜公表した。成果公表で使用する言語については、より多くの識者や読者が触れやすい英語をはじめ複数言語を用いて発信するよう努めた。

(4) 総合的なヨルダン研究の完成

上述の研究活動に基づいて、ヨルダンの歴史、政治、社会、国際関係、安全保障、人口移動の個別分野の研究達成状況を確認し、その過程で得られた新たな知見を抽出した。国際関係および人口移動については、佐藤の示す国際関係学を軸とした複合的な分析枠組を活用し、多様なアクターの分類・整理を進め、同時に吉川の進める政治・社会・安全保障分析との調整をはかった。以上により、本研究は、ヨルダンの国家・社会構造と、それに関わる全ての国内外アクターの相関関係を可能な範囲で明らかにし、その国家体制維持の構造の全容を解明することを目指した。

4. 研究成果

(1) 学会等発表

概ね、当初計画のとおり成果を収めた。本研究では国際学会等における成果報告に力を入れており、2018年には「世界中東学会(WOCMES)」の同一パネルにて、吉川が日本の対ヨルダン開発支援について、佐藤がヨルダンのイスラームNGOの活動について報告した。個別の発表でも、吉川が国際学会(「ISA-GSCIS」(キューバ)、「CEEISA-ISA」(セルビア))やシンポジウム(「2019 Global Forum on Modern Direct Democracy」(台湾))で報告した。佐藤は「10th International Symposium on Islam, Civilization and Science」(マレーシア)で国際的なシリア難民支援ネットワークに関して報告した。国内では、吉川が「日本比較政治学会」大会(2017年)、佐藤が「日本中東学会」大会(2019年)をはじめ複数の学会・シンポジウムで研究成果を報告している。

(2) 雑誌等論文

2017-2019年を通じ、吉川と佐藤は積極的な論文の投稿を行った。例えば吉川は、国家-社会関係(『日本比較政治学会年報』掲載)、社会運動やイスラーム主義運動(『全球政治評論』『欧亜研究』掲載)、日・ヨルダン関係(『Contemporary Review of the Middle East』掲載)、安全保障環境の変化(『国際安全保障』掲載)等に関する論文を公表した。佐藤は、王族主導型NGOの分析(『Asia-Japan Research Academic Bulletin』掲載)等に関する論文を発表した。これらの成果は政治学・地域研究をはじめ幅広い学問分野のジャーナルで発表されており、また言語区分も日・英・中国語と多岐にわたることから、国際的かつ学際的な情報・研究成果発信になったと考える。

(3) 現地調査や国内外学会活動を通じたネットワークの強化

吉川・佐藤とも、全研究期間を通じ、ヨルダンの大学・研究機関をはじめ国内外で継続的な調査、人的ネットワーク構築を進めた。これらの成果は、2019年に開始した、科研費国際共同研究加速基金(国際共同研究強化(A))「ヨルダン政治と部族社会:南部の政治・社会・経済に関する現地調査を中心に」に引き継がれている。

(4) 図書

本研究の最終成果を、図書として刊行する。吉川の成果『ヨルダンの政治・軍事・社会運動 倒れない王国の模索』は、ヨルダン王制の持続性の根拠を、レジーム・セキュリティ(体制の安全保障)の視点から政治・社会・軍事等を軸に論じたものであり、2021年2月に刊行される予定である(2020年8月校了)。上記がハーシム王国体制という国家主体を中心に分析を試みたのに対して、佐藤『難民100万人を受け入れる国・ヨルダンの話 ヨルダンってどんな国?』(2021年度刊行)では、ヨルダン国内の難民・避難民を主たる分析対象にしながら、難民支援に関わる国際社会、国家(ヨルダン)、国際・国内NPOとの関係性についても分析・考証を行っている。これらは異なるアプローチをとりながらも、本研究が目指した、政治学(理論研究の深化)と地域研究(実証性の論及)の架橋を念頭に置いた成果であると考えている。

(5) 研究課題の達成

最後に、冒頭1.で掲げた3つの課題の達成度を示すことで、本報告書の総括としたい。1.(1)(総合的なヨルダン研究の蓄積)については、本研究における学会発表や論文の発表を通じて、実証的な学術的成果を質的にも量的にも中東政治研究全体に還元できたと考える。1.(2)(垂直的なヨルダン分析の克服)については、本研究では吉川・佐藤の専門分野はもとより、地域研究、政治学、国際関係学、安全保障、社会運動、開発、人道支援といった異なる分野を架橋することによって、ヨルダンの国家機構とそれぞれの分析対象の関係性(縦関係)はもとより、それらの主体間の相互連関(横関係)について論じた。1.(3)(ヨルダン1国研究を超えた視座の提示)については、本研究ではヨルダン周辺地域的情勢悪化を踏まえた、緩衝国家としてのヨルダンの役割強化について、アラブ諸国はもとより域外諸国との関係をも含めた広い視座からの説明を試

みた。この課題は中東政治の構造変容という、より大きな研究課題と密接に関連しているため、本研究終了後も、多くの社会科学・中東政治研究者と協力・連携しながら継続的に取り組む意向である。以上をもって、本研究の最終報告としたい。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計8件（うち査読付論文 8件/うち国際共著 0件/うちオープンアクセス 2件）

1. 著者名 吉川卓郎	4. 巻 69
2. 論文標題 「イスラム主義組織内の認同衝突：アラブの春後約旦哈希姆王國內的穆斯林兄弟會分析（イスラム主義組織内部のアイデンティティの葛藤：アラブの春以降のヨルダン王国におけるムスリム同胞団の事例分析）」	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 『全球政治評論』	6. 最初と最後の頁 1-6
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） ONLINE ISSN 1726-3786	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -
1. 著者名 吉川卓郎	4. 巻 48-1
2. 論文標題 「ヨルダンにおけるイスラム主義の安全保障化：ムスリム同胞団とISの事例から」	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 『国際安全保障』	6. 最初と最後の頁 調整中
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 Marie Sato	4. 巻 1
2. 論文標題 “Islamic Charity and Royal NGOs in Jordan: The Role of Monarchical Institutions in its Balancing Act”	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Asia-Japan Research Academic Bulletin	6. 最初と最後の頁 1 - 12
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） ONLINE ISSN 2435-306X	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 吉川卓郎	4. 巻 20
2. 論文標題 「ヨルダンにおける「アラブの春」民主化運動とその帰結—ムスリム同胞団運動の事例から—」	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 『日本比較政治学会年報』	6. 最初と最後の頁 167 - 192
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Takuro Kikkawa	4. 巻 5
2. 論文標題 The Diversity of Japan's Overseas Development Assistance to the Hashemite Kingdom of Jordan: A Case Study of the Role of Security	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Contemporary Review of the Middle East	6. 最初と最後の頁 241-257
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) https://doi.org/10.1177/2347798918776737	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 吉川卓郎	4. 巻 3
2. 論文標題 「アラ伯之春前後約旦軍事能量之再評価」	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 『欧亜研究』	6. 最初と最後の頁 93 - 104
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 佐藤麻理絵	4. 巻 18-1
2. 論文標題 「難民ホスト国ヨルダンにおける国内アクターの展開 イスラーム的NGOの分析を通じて」	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 『アジア・アフリカ地域研究』	6. 最初と最後の頁 1-18
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 佐藤麻理絵	4. 巻 11
2. 論文標題 「書店案内 アンマン編」	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 『イスラーム地域研究』	6. 最初と最後の頁 430-440
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.14989/230480	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

〔学会発表〕 計11件（うち招待講演 2件 / うち国際学会 6件）

1. 発表者名 Takuro Kikkawa
2. 発表標題 Islamic democracy vs. regime security: a case from the Muslim Brotherhood in the Hashemite Kingdom of Jordan
3. 学会等名 2019 Global Forum on Modern Direct Democracy (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Marie Sato
2. 発表標題 Islamic Charity in Contemporary Times: A Case of Syrian Relief Work from Japan
3. 学会等名 10th International Symposium on Islam, Civilization and Science (ISICAS 2019) (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 佐藤麻理絵
2. 発表標題 トルコにおけるシリア支援の構図：大塚モスクを起点とした人的ネットワークを中心に
3. 学会等名 日本中東学会第35回年次大会（秋田大学）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Takuro Kikkawa
2. 発表標題 "The Role of Security in Japan's Overseas Development Assistance to the Hashemite Kingdom of Jordan"
3. 学会等名 The Fifth World Congress for Middle Eastern Studies (WOCMES) (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Marie Sato
2. 発表標題 "Jordan's balancing act to the refugee crisis: redefining civil society"
3. 学会等名 The Fifth World Congress for Middle Eastern Studies (WOCMES) (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 吉川卓郎
2. 発表標題 「ヨルダン ハーシム家レジームの清算と継承」
3. 学会等名 シンポジウム「『アラブの心臓』に何が起こったのか」
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 佐藤麻理絵
2. 発表標題 「トルコにおけるシリア支援の展開 医療支援からインフラ整備まで」
3. 学会等名 JITx東洋大学アジア文化研究所共催「シリア人によるNGO活動 2018年8月のトルコ調査から」報告会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 吉川卓郎
2. 発表標題 「ヨルダンにおける『アラブの春』民主化運動とその帰結：ムスリム同胞団の事例から」
3. 学会等名 日本比較政治学会第20回大会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Takuro Kikkawa
2. 発表標題 "Reassessment of Hashemite Kingdom of Jordan 's Military Capabilities before/after the Arab Spring"
3. 学会等名 Eurasian Studies Quarterly special issue on post-ISIS Middle East: research workshop (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 佐藤麻理絵
2. 発表標題 「現代ヨルダンにおけるホスト社会形成-レジティマシーをめぐる一考察-」
3. 学会等名 日本中東学会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Marie Sato
2. 発表標題 " Islamic NGOs and their Provision of Urban Refugee Protection in Jordan "
3. 学会等名 IUAES Commission on the Middle East Institute of Ethnology and Cultural Anthropology (国際学会)
4. 発表年 2017年

〔図書〕 計3件

1. 著者名 吉川卓郎	4. 発行年 2021年
2. 出版社 株式会社晃洋書房	5. 総ページ数 200
3. 書名 『ヨルダンの政治・軍事・社会運動 倒れない王国の模索』	

1. 著者名 佐藤麻理絵	4. 発行年 2021年
2. 出版社 合同出版	5. 総ページ数 144 ~ 166
3. 書名 『難民100万人を受け入れる国・ヨルダンの話 ヨルダンってどんな国?』	

1. 著者名 佐藤麻理絵	4. 発行年 2018年
2. 出版社 ナカニシヤ出版	5. 総ページ数 204
3. 書名 『現代中東の難民とその生存基盤 難民ホスト国ヨルダンの都市・イスラーム・NGO』	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究 分担 者	佐藤 麻理絵 (Sato Marie) (80794544)	京都大学・大学院アジア・アフリカ地域研究研究科・助教 (14301)	